

チューニング大特集/暴走族諸君! 「改造」はキミたちの玩具ではない! ACT3



▲雨のサーキットでは、ノーマルカーの方が走行しやすい(諏訪サバンナ)

ラブルな足回りだが、痔には悪いんじゃないかな」と冗談まじりのアドバイスをあたえた。ハイパフォーマンスなクルマをテストしてきた館選手が「あのクルマ、ターボがきいているのかい」と思わず口に出した、森クンのスカGTターボ。

と効果があるそう。次に、陸野クンのローレル。ラップタイムはいちばん良く1分14秒72。これは雨のコースにぴったりのパワーだったからだろう。「ちょうど手頃な改造だと思ふ。でも排気音が少しいるさ。んじやないかな。音はなるべくノーマルに近い方がいいね。特に女の子を乗せている時にはもう少し静かな方がいいゾ」というと陸野クンは「あの音だから女の子にモテルんですよ」。

「しかし、高校生位までだろう。カメラ/太田俊夫

ハッハッハ(館選手) 最後に堀サンのブルーバード。「サーキットより本来のダートコースでテストしてみたかった」と、ちよびり不満そうな館選手だが、ダートラマシンのとしては、かなり完成されたクルマだ。

「一般公道でもトルクがあるので走りやすそうで問題はないでしょう。ただ文句をいうとすれば、ワイパーの動きがニブイので動きの速いモーターに交換した方がいいですな」と、各改造車に適切なアドバイスを館選手はしてくれた。

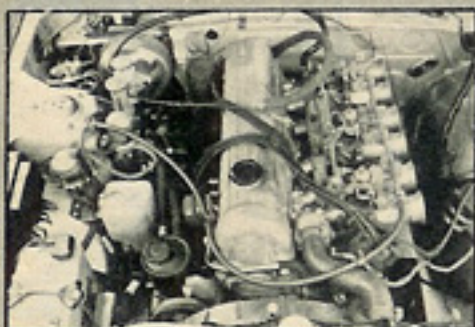
また、ルームミラーに人形をぶら下げたり、リアウインドウのカーテン、スベリ止め用のペダル類を取り付けることは、走り屋のすることではなく、もっとすっきり」とのこと。

走り屋のドレスアップは、フットレストやバケットシートを取り付けることが望ましく、外観はあくまでもノーマルに近い状態で改造することがベストであると付け加えた。

そして、本日のベストマッチング車がブルーバードのダート仕様であったことも伝えておこう。この車は正統的なモータースポーツチューンが行なわれている。モータースポーツで勝つためには、正しいチューニングでないとは絶対ダメ。正しいチューニングが行なわれていれば、速く走れるのだ。この点をキモに銘じて欲しいと思う。



●佐原 薫スカイラインGT・EX ラップタイム1分17秒52 区間最高速80.90 km/h コルビューのバケットシートにナルディのステアリング

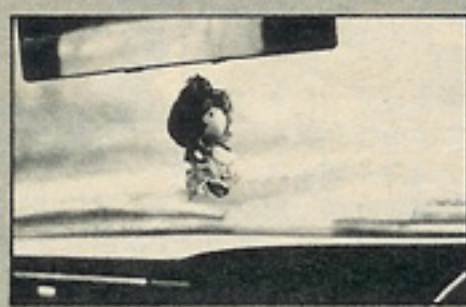
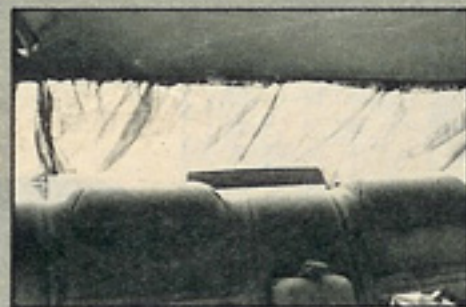


■エンジン=L28改(3.0) ■キャブ=ソレックス50φ3連装 ■排気系=ステンレス製タコ足+50φ ■デフ=LSD(3.7) ■サス=強化サス ■ショック=F・R共コニ



上田レーシングのチューニングによるL28改エンジン。高速重視のチューニングが行なわれている

ダンロップSP44というタイヤはいまひとつといった感じがあった



「速いクルマはスツキリさ。せろ」と、人形やカーテン、大きなスベリ止めペダルを取り付けているクルマに文句がでた。大きなペダルはややもすると操作ミスにつながる。

★次回の「館信秀のチューニング講座」も中山サーキットにおいて、10月8日12時より行ないます。ご希望の方はハガキに車名、改造箇所、目的を書いて10月3日までに到着するよう編集部まで。参加していただく方には6日に電話連絡します。